

いつまでも 心に残る 思い出を！

～ふれあいの船 北海道体験学習～



市内の小学6年生を対象とした「ふれあいの船」がA班（7月21日～ 25日）128人、B班（7月26日～30日）143人で実施されました。5日間の行程の中で、児童は友達と共同生活をする中で、協力することの大切さを学ぶと共に、夕張市の皆さんの講話や北海道の大自然に触れ、普段の生活では味わえない貴重な体験をしました。

1日目 たくさんの人に見送られて、大洗港から北海道を目指し出航！

文化センター小ホールで出発式を行った後、大洗港からフェリーに乗り込みました。初めての船旅、そして家族と5日間離れての生活に不安を感じながらも、元気よく「行ってきます！」と手を振り出航しました。

2日目 いよいよ北海道到着！

船内では、ブリッジ（操舵室）を特別に見学することができました。船長や船員の方から、船に関わる機械などの説明を受けました。船旅を終え、アイヌ民族博物館に行く予定でしたが、A班は予定より長い船旅になってしまったため、残念ながら見学することができませんでした。B班は舞踊体験、館内見学をし、アイヌ文化について学ぶことができました。

3日目 夕張市内で体験活動や夕張市の皆さんと交流

クレイアニメ制作は、初めての体験でしたが、友達と話し合いながら、協力して進めることができました。また、石炭博物館では、夕張市発展の要となった炭坑について、ガイドの解説を聞き、その歴史などを学びました。

夕張市の皆さんとのふれあいタイムでは、夕張市について教えてもらいました。常陸大宮市との違いや共通点などを発見し、夕張市をより身近に感じられたようです。

4日目 北海道最終日！

札幌市内を班別で行動しました。ボランティアガイドの解説のもと、市内の名所等を巡り、その後羊ヶ丘展望台でジンギスカンを食べました。クラーク博士の像を見て、「この像見たことある！」と思った児童も多かったようです。最後のサケのふるさと水族館では、クイズラリーを行いながらサケのことを学ぶことができました。夕方には、名残惜しく思いながらも帰りのフェリーに乗り、大洗港へ。

5日目 大洗港到着～常陸大宮市で解散式

船酔いをした児童もいましたが、みんなで助け合い乗り越え、下船。5日間で仲間との絆も生まれました。

解散式後には、お世話になった引率の方々にみんなで感謝を伝えました。児童たちは、たくさんのお土産話を持ち帰ることができたようです。



▲操舵室から



▲実際に坑道に入りました！



▲赤レンガの旧北海道庁を見学



▲クラーク博士像